

幼児の表現活動についての考察

— 幼児の版画活動の製作と展開 — 1 —

若杉 雅夫 (芸術学)

はじめに

幼児期における造形活動は、子どもの心身の発達を順調に促す潤滑油となる。無心に造形活動を繰り返す過程で、感受性や表現力、手先をコントロールする力・順応力等が自然に培われる。

造形活動の種類としては、大きく平面活動と立体活動に分けられる。また、平面と立体活動を組み合わせた造形遊びも多くある。既成概念に捕らわれることなく造形活動を考えれば、その世界は多彩な広がりを持っている。本稿ではこの中で特に版画遊びに的を絞り、幼児に適した版種と表現のバリエーションについて検証・考察する。

多様な造形活動の中から版画を取り上げたのは、その世界が多感な感受性を持つ幼児にとって、冒険心をくすぐるような表現の不思議さを持っているからである。版画遊びの過程で素材や線や色に対する興味・関心が引き出され、また刷るときに大きな期待感をも得ることができる。さらに、転写された表現を見ることによって驚きや感嘆を感じることもでき、子どもの意欲や表現能力は、自然に培われていく。版画活動は子どもの心身の発達を効果的に促し、また、魅力的な造形遊びでもある。

1. 版画の概要

版画とは、英語に置き換えれば Print という言葉で表されることから分かるように、簡単に述べれば転写された平面造形表現の総称である。現代は転写をともなう表現技術が平易かつ多彩になっている。特にプリントごっこやコンピュータグラフィックの普及で版画の世界は多くの人が体験する一般的な表現手段になりつつ

ある。版画表現は、考えられている以上に柔軟で幅広い広がりを持っている。

版画の種類としては、下記に示すA～Dの4種の版形式に分類され、この中に多彩な版種が存在する。

- A. 凹版—版面の凹んだ溝にインクを詰め込みプレス機で刷る。
銅版画・ドライポイント・ビニール版画・紙板版画・コラージュグラフ
- B. 凸版—版面の凸起した部分にインクをつけ刷る (刷る道具としては主にバレンが使用される)。
木版画・紙版画・ゴム版画・粘土版画・石膏版画・スチレン版画・スタンピング・フロッタージュ
- C. 平版—版面に凹凸が無い平らな版。
リトグラフ(石版画)・マーブリング・デカルコマニー・モノタイプ
- D. 孔版—版面の描線部分にインクが染み込み転写される。若しくは、版に穴を開けその形を写し取る。
シルクスクリーン・ステンシル

以上版形式とそこに含まれる版画の種類について述べた。版形式はこの4パターンで括ることが出来るが、その種類に付いては他に多くの版種が存在し創造されつつあり、多種多様な広がりある表現の可能性を版画の世界は含んでいる。

版画表現の特徴としては、何枚も同じ作品が複写できる点がまず上げられる。次に制作過程

が下絵～下絵を版に転写～製版～刷りと工程化され、技術的な傾向が強い面が上げられる。その為か、版画は絵画の副産物という見方が一部の日本人にはある。その様な評価は、版画イコール、エスタブという考え方に代表されている。しかし私は、版画は絵画と同等の表現手段であり、絵画同様の表現の豊かさと奥深さを内在していると考ええる。また、日本は浮世絵(木版画)が近代欧米の美術界に強い影響を与えた深い文化的背景を持っている。子どもたちから版画活動に取り組むことは、日本の芸術・文化を継承する素地を培うことにもつながる。

2. 幼児期の版画表現の特性と効果

幼児の版画活動を考える場合、一般的な版画制作の概念に当てはめることは出来ない。先ず、幼稚園教育要領や保育指針の理念(遊びを柱として子どもの心身の発達を促す)を十分に理解して活動を考えることが大切である。次に、版画活動の内容は、子どもの適齢を考えて、平易かつ柔軟性を持たせて考えることが必要である。版画表現自体、繰り返し述べているように多様性と柔軟性を兼ね備えているので、その条件を難なく満たすことができると考える。

指導についても、技法や製作工程に固執することなく、子どもの実態に合せた支援(指導・環境設定)のあり方を熟慮して取り組む必要がある。また、当然作品作りを目的とするのではなく、造形遊びの種類を豊富にし、子どもの表現意欲を高め、表現する喜びを体感する有効な手段として版画活動を捉えて、日常の保育に取り入れる姿勢が大切である。

幼児の版画遊びには、驚き・興味・関心・不思議さそして期待感など、子どもにとって冒険心や好奇心をくすぐるような様々な表現の特質がある。その特質について次に示す。

1. 形が写し出される不思議さ・驚き
2. 何枚も同じ絵が出来る喜び
3. 思ってもみない効果が表現できる
4. 身近にある様々な物が版材となる驚き
5. 版を作る楽しさ・期待感

6. 反転することを体験し認識する
7. 同じ形がいくつも出来る
8. 一枚の版で違う色の表現を楽しめる
9. 色々な材料・用具の使い方やそれにとともなう造形活動を体験することが出来る

版画表現の特性を大まかに上げたが、版画遊びを最初に取り入れる場合は、手や足を型押しする遊び(スタンピング)から始め、徐々に色々な道具を使用する活動に発展させると、無理なく子どもが取り組めるであろう。つまり、適齢や活動歴を考えた「保育計画」を十分に練り、展開させることが大切である。

版画遊びは、造形表現に苦手意識を持った子どもや、集中力が持続しない子どもにとって興味・関心・意欲を引き出すのに効果的な活動と考える。

3. 幼児の版画遊びの種類

前述したように版画は四種の版形式に分れ、その版形式の中に多彩な版種が存在する。ここでは、幼児でも容易に取り組むことができる版画の種類について検証する。

幼児に適した版画活動は、凸版の中にその数が多く、スタンピング・フロッタージュ・スチレン版画・紙版画・石膏版画・粘土版画・コラージュグラフ(本来は凹版であるが子ども用に凸版に応用)などが上げられる。凸版の代表と言ってよい木版画については彫刻刀の使用などの難しさから適切でないと考えている。

次に凹版であるが版製作の工程が難しい点や、インク詰、インクの拭き取り、プレス機が必要(幼稚園・保育所には設備がない)などの条件から、幼児の版画活動には不向きであると考えられる。平版については、モノタイプ(モノプリント)や様々なオートマティックな技法が有り、幼児の版画遊びに取り入れる版種が多い。モノプリントとは同じ絵・形が一枚しか転写できない版の総称と考えてよい。種類としては、指絵の転写や水をはじく板(ビニール・アクリル・ガラス)に絵の具で描画したり、たらしたり散らしたりしたものを転写する方法。ローラーで

水をはじく板に版画インクを全面に塗り、割り箸などで描画し転写する方法。インクをつけたローラーに直接絵を描き転写するローラー転がしなどがある。オートマックな表現とはモノプリントと同じく同じ絵が一枚しか刷れない版画遊びのことであるが、版材が不定形で転写された形も偶然に出来る。種類としては、デカルコマニー・マーブリングなどが考えられる。最後に孔版は、ステンシルが上げられる。シルクスクリーンを簡便化した“プリントゴッコ”もあるが機材から考えて実用的ではない。

以上幼児に適した版画の種類を上げた。ここで考慮しなくてはならない点は、油性インク(人体に害がある絵の具)の使用や幼児には無理な工程がある版種、及びプレス機が必要な版種は避けるべきであろう。

4. 版画活動の製作と展開

ここでは、日常の保育で無理なく取り入れることができ、且つ、幼児に適していると考えられる、スタンプング・フロッタージュ・紙版画・ステンシル(型紙版画)のねらいと、それぞれの版画遊びの中にある様々な製作の実際ならびに展開について、順を追って実践例を上げながら具体的に記述する。

1) スタンプング(型押し)ー凸版

版画活動の中で最も原初的な版種と言ってよい。印鑑を想定すればよいので、幼児にとつても日常目の当たりになっているものであり、理解しやすく製作自体も平易である。版も改ためて製作する必要が無く、押して形が転写される物なら全てそのままスタンプングの版になるので、版材は限りなく存在する。

この遊びの適齢は幅広く捉え、保育に生かすとよい。

● スタンプング遊びのねらい

日頃、見馴れている様々な身の回りの物(主に廃材や野菜がよい)をスタンプングすることによって、形の持っている面白さや複雑さ、美しさに気付く、形や色に対する興味や関心を培い感性を育てる。そして、日常生活の様々なモ

ノに対する豊かな感受性を養う。

● スタンプング遊びに必要な材料・用具

水彩絵の具・ぼろ布かスポンジ又はティッシュ・ブリキの箱かスチレントレー・スタンプ出来る材料(木の葉・鉛筆・スポンジ・紙類・消しゴム・野菜・ふた・容器・箱など身の回りの色々な物)・新聞紙・画用紙・雑巾・水入れ

● 準備・環境構成

準備としては先ず、保護者に連絡してスタンプ出来るような材料を用意するか、保育者自身が準備する。自然材をスタンプする場合、子どもと一緒にスタンプ出来そうな物を探しに行くのもよい。スタンプ台を用意すると活動がスムーズになるので、濃い目に溶いた絵の具をブリキの箱若しくはスチレンのトレイに入れ、スポンジなどを浸したものを数色用意する。下敷きとして新聞紙を用意する(5~6枚)。スタンプ材を洗う水入れと雑巾を用意する。以上を5~6人で活動できるように設定する。

※スタンプングに使う絵の具は、油性質の版材にも対応できるように、中性洗剤を少量加えて中性化すると、版画インクとして使いやすく形も明確に転写される。

● スタンプング遊びの導入(保育者の援助)

活動が円滑且つ主体的に広がるように、保育者は導入時から活動時にかけて、随時子どもの状況を見定めた言葉掛けをすることが大切である。

導入での言葉掛けは、子どもの関心や意欲が湧くように心掛け、日常生活の中でスタンプングに類似した行為を取り上げ、これから始まる活動がイメージできるようにするとよい。具体的には、「お母さんやお父さんが判子を押しているところ見たことある?お母さんになったつもりで一杯押してごらん」「海に行った時、手形を砂につけたことあるかな」「雪が積もると車のタイヤの跡や猫や犬の足跡が判子みたいについているね」などが上げられる。

活動中も意欲を引き出させる言葉掛けが大切だが、ここでは一人一人の子どもの状況をよく観察し、それぞれに掛ける言葉を考えなければならぬ。例えば活動に馴染めない子どもには、そっと手を取ってスタンプの仕方をさり気なく援助をする。順調に活動している子どもには、

もっと意欲が増すように感嘆の言葉を送る。集中力が無くなってきた子どもには「もっとたくさんお友達を作ると喜ぶよ」などと興味や関心が湧くように言葉掛けする。

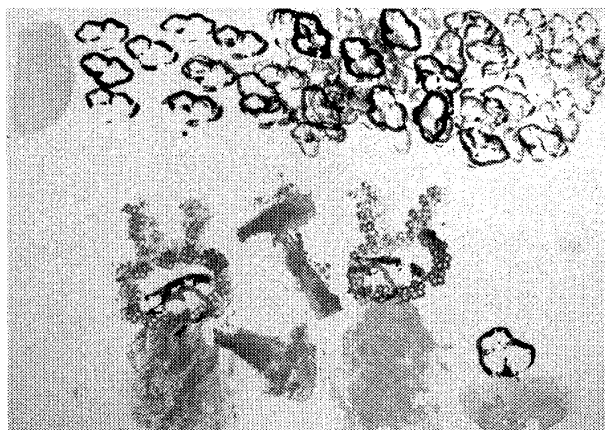
活動が終了した時点で保育者が一人一人にそれぞれの褒め言葉を掛けることによって、保育者に対する信頼感が増し、更に、子どもの心にもやり遂げた満足感と自信を持たせることが出来る。

● 製作及び展開

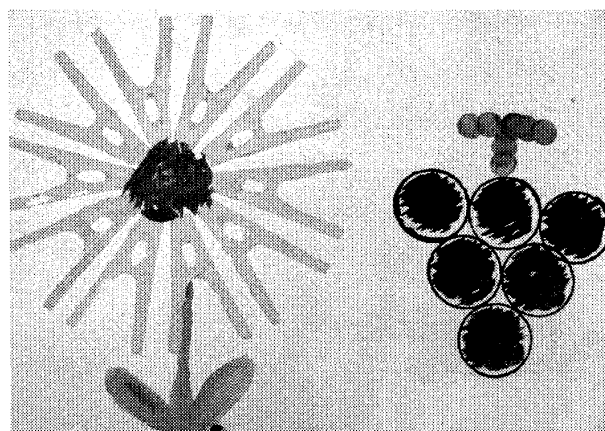
画用紙を下敷き（新聞紙夕刊一部程度）の上に乗せ、スタンプ材にインク台の色を付けスタンプする。その際スタンプする材料を垂直に確り持って作業するようにする。最初は同じ色で連続する表現遊びだけでも十分に面白い。また、単一色でスタンプ材を変えたり、同じ材料で色を変えたりしても変化のある表現になる。同じ材料で色を変える場合は、洗い桶などで洗い、布で拭ってから活動する。スタンプ材は基本的には立体なので、押す面を多面的に考えると表現のバリエーションが広がる。その他、転がしながらスタンプするなど、色々な動きを加えると複雑で思っても見なかった表現を得ることが出来る。紙・布・紐などを丸めたりクシャクシャにしたりしてスタンプしても楽しい。また、色画用紙を使うと、効果的に転写の表現を得る為にスタンプする色の工夫が必要となり、色に対する感性や考える力を培う。さらに、色彩効果も一段と豊かになる。

初期のスタンプ遊びでは、押して遊ぶことに慣れ親しむことが大切である。十分に活動

を体験すれば、スタンプすることの面白さや、形や色が持っている魅力にも気付くようになる。無作為なスタンプ遊びを十分に体験した後、次へのステップとして、自己の想いを形で表すスタンプの表現活動に繋げていくとよい。例えば、スタンプで模様や図形、具体的な形を表現することによって、デザインの感覚を養い、工夫する力や想像力を育むことができる。



餅つき（野菜を繰り返してスタンプ） 図-2



洗濯ばさみの花とぶどう 図-3



虹色の手のスタンプ 図-1

2) フロッタージュ（こすり出し）-凸版

子どもの頃、十円玉や自慢のメダルにノート紙や藁半紙を被せ、鉛筆でこすってその形を写し取った経験をかすかな記憶の奥底に残している大人は少なからずいる筈である。それは、写し取った刹那の驚きや、形が持つ精巧さ美しさに惹き込まれた想いが、残像のように意識の中に残っているからである。私がこの技法を取り入れた作品に初めて触れたのは、シュールレアリスムの巨匠マックス・エルンスト(1891～1976)の絵であった。タブローにフロッタージュ

の技法を応用して表現した作品を見た時は、驚きと懐かしさが入り混じって、心の奥底に触れるような不思議な魅力に魅入られた。ここで取り上げるフロッターージュは、もともと子どもの自由な遊びの一つを版画活動として取り入れたと考えればよい。

● フロッターージュ遊びのねらい

凹凸のある色々な人工材・自然材をフロッターージュすることで、身の回りのモノが持っている、複雑で微妙な美しさに気付く。

手の動きをコントロールする力と集中力を培う。

● 材料・用具

ある程度の硬さを持った凹凸あるもの(コイン・木の葉・すりガラス・板・壁紙・ケース・網・布・壁面などある程度の硬さを持ち凹凸のあるものならどんな材料でもよい)・画用紙・藁半紙か上質紙・クレヨン・クレパス・鉛筆(B以上の濃い物)・色鉛筆(クーピーペンシルが最適)・コンテパステル

● 準備・環境構成

保護者に連絡してフロッターージュ出来るような材料を子どもに持たせる(活動に対する期待感が広がる)。

フロッターージュの版材探しを園内全体でできるように配慮し、写し取れそうなものを事前にチェックする。

● フロッターージュ遊びの導入の仕方

保育者自身が身に付けているものや、保育室の中でこすり出し出来るような物を探し、子どもの前で写し取ってみる。具体的には、財布の中から硬貨を出し(五百円玉だと大きくて写しやす)、**「この五百円玉を増やしてみようかな？」****「見てごらん色々な絵があるでしょ」**など言葉掛けする。または、壁の凹凸や机・椅子の板から写し取り**「ほら壁や机からこんな模様が出たよ」****「不思議だね。面白いね」**など言葉掛けすることで子どもの興味や関心を引き出す。フロッターージュはこすり出すだけの簡単な活動だが、ずらしたり乱暴にこすり過ぎてしまうと、かたちがずれたり線が太りすぎたり紙が破れたりしてしまう。はっきりかたちが出ないと驚きや意欲が半減してしまうので、子どもが集中し

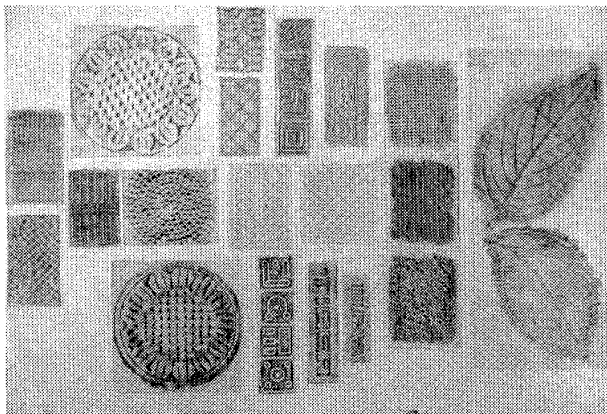
て活動できるように、導入時にこすり出す楽しさや写る物を見つける面白さを十分に伝える。そうすれば子どもは自ら工夫してフロッターージュに熱中するであろう。

● 製作活動及び展開

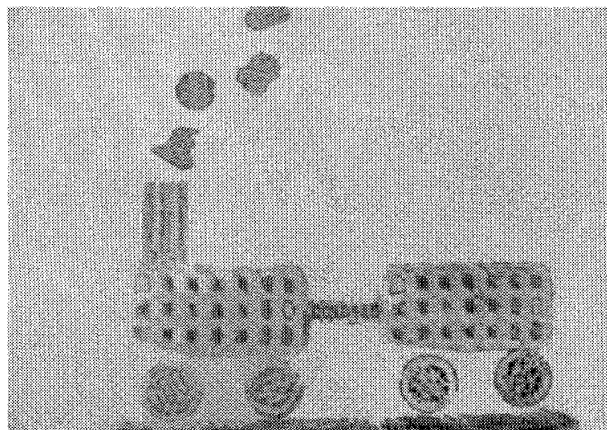
初めてフロッターージュを取り入れる場合は、簡単にこすり出し出来るような物(木の葉・木の板・コイン等)を保育者が用意しておく。机の上にフロッターージュ材を置いて薄紙(藁半紙や上質紙でもよい)をテープで動かないように止めておくと、容易に形をこすり出すことが出来る。クレヨンなどで軽くこする。上手く形を写し取ることが出来ないケースも多いが、保育者の言葉掛けや子どもの工夫によって、徐々に確かな形が写し取れるようになる。クレヨン・色鉛筆・クーピーペンなど写し取る物や色を変えてこすり出すと、同じ形でも色々な表現の変化を得ることが出来る。机の上でのこすり出しに慣れたら、垂直面のこすり出しに挑戦するとよい。垂直面(壁や扉・窓ガラス)のフロッターージュは、こすり出し出来る物の範囲を飛躍的に拡大させる。活動になればフロッターージュする物を子ども自身に見つけさせることが大切である。自分が持っている物や保育室の中の物、園庭や園外などで見つけるのも発見することの快感と喜びを感受することが出来る。更に、フロッターージュ出来る物を子どもが見つけだす行為は、周りの物に対する感受性や観察力を培い、自主性を養い、自然に主体的活動に発展する。

こすり取った絵は、切り取ってカタログのようにして分類することも楽しい遊びになる。また、フロッターージュした絵を利用して絵画表現すると不思議で魅惑的效果を得ることが出来、子どもの想像力を刺激し表現意欲を高める。

最後にフロッターージュの表現のバリエーションとしては、バチックを併用すると思わぬ効果を得ることが出来る。白いクレヨンでこすり取り、その上から絵の具の赤や青の原色を塗るとこすりだした白い形が鮮やかに蘇る。



フロッタージュの魚 図-4



フロッタージュで汽車ポップ 図-5

3) 紙版画—凸版

紙版画は、これまで紹介としたスタンプングやフロッタージュと違い版を作る工程と版画インクなどを使って刷る工程が加わるが、版材が紙であることから幼児にとって取り組みやすい版種の代表格と言ってよい。また、その表現技法も豊富で表現の幅も飛躍的に広がる。活動に組み入れる年齢は、5歳児(年長)以上が適切である。

● 紙版画遊びのねらい

決められた工程(一定の条件)を守りながら、自由な自己表現に繋げる力を培う。

仕上がりを想像して版を作る過程から、工夫する力や先を見通す能力を育てる。

刷ることの楽しさを知る。

はさみなどの材料用具の使い方に慣れる。

材料用具を片付けることで、物を大切にすることが育ちを培う。

● 紙版画遊びに必要な材料・用具

紙(画用紙・折り紙等) 水彩絵の具・水溶性

版画インク・インク練板・バレン・ゴムローラー・新聞紙・はさみ・糊・和紙(無地の障子紙)

● 紙版画遊びの準備・環境構成

版にインクを付ける机と刷る机(両方とも机の上に新聞紙を5~6枚敷く)と刷った作品(作品棚があれば最適)を置く場所を特別に準備する。

新聞紙は、一人朝刊一~二部ぐらいの目安で余分に用意する。

汚れてもよい服装に着替える。

● 紙版画遊びの導入の仕方

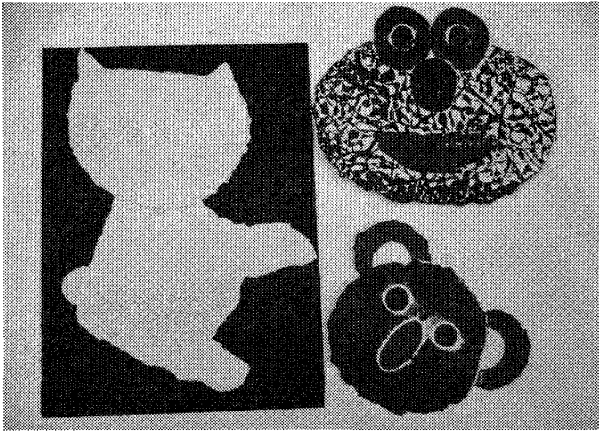
これまで紹介した版画遊びと違い、決められた版画製作の工程を経ないと、表現を得ることが出来ない。目的意識を持って活動に加わる適齢がまず必要であることを考慮することが大切である。生育歴や造形経験の頻度の違いはあれ、年長児以上が無理なく活動に取り組みると考える。また、紙版画遊びの前段階としてスタンプングやフロッタージュ遊び、紙を切ったりちぎったりする遊びを十分に行い、無理なく取り組みのように保育計画を立てることが必要である。

活動を始める前に保育者が作っておいた紙版画の版を子どもの前で刷ってみせ、活動の仕組みを具体的に示す。ここで、紙版の作り方や版画用ローラー・インクの使い方、刷る方法(バレンの使い方)を学ぶことになる。

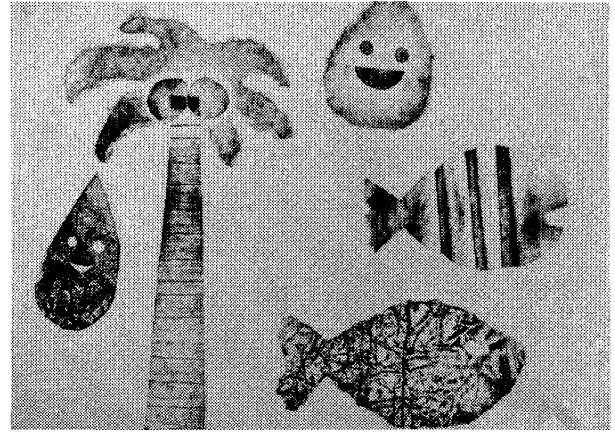
● 製作活動及び展開

製作は、最初丸や三角などの基本的な図形やそれを型抜きしたり、重ねて貼りつけなどした簡単な紙版を作り、その版を画用紙の上で固定せず、新聞紙の上に乗せてローラーでインクをつける。インクをつけた版を刷る机に移し、子ども自身の手で刷る。この活動で、一通りの工程と紙版画の表現の効果を子どもが体験する。このことで、紙版画の作品製作を無理なく円滑に進めることができるようになる。また、最初の言葉がけの時点で、保育者が「お友達」「芋ほり」「動物園」等と子どもそれぞれの興味を考えてテーマを伝えると、比較的製作に取り組みやすくなる。

版の製作は、描画した絵をはさみで切り取ったり、破ったりしてカタチを切り出す。切り出した紙が版になるが、この状態では刷ったとき



紙版画の単体の版 図-6



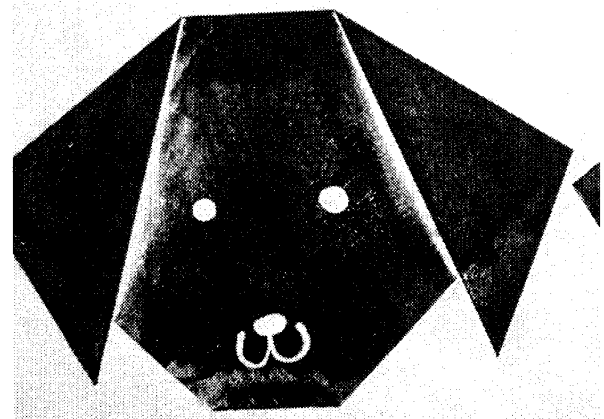
単体の版を自由に並べて刷る 図-7

シルエットでしか表されないので、その紙の上に別の紙を貼り凹凸を作ると、表現が複雑になり紙版画作品としての効果が増す。具体的に述べてみると、人の顔を表す場合、顔の型紙の上に目や鼻や口の形、さらに髪などを別に切ったりちぎったりした紙を貼り付けることで、表情を豊かに表することができる。

紙版画の展開は、素材自体が柔軟性に富んでいるため、自由な表現を得ることができ、大きな広がりを持っている。その広がりには、子どもの驚きや関心、好奇心を十分に満たすことができる。版のバリエーションも紙をクシャクシャにする、穴を開ける、折り線をつける、折るなど多彩な表現がある。また、ここで述べている一つ一つの形を単体で作り新聞紙の上に並べて刷る手法の場合、自由に構成することができ、子どもの表現意欲を高め表現活動を活発に促す。画用紙に型紙を貼って製作するパターンも幼児の活動に適しているが、子どもの遊び心を刺激して活動を楽しく展開するには、単体の版が効果的であろう。

単体の紙版画遊びを十分に体験した後、一枚の絵を想定した活動につなげる保育計画を立てると、子どもの表現力を無理なく自然に高める。刷りに関しては、基本的にはバレンを使うが紙のかさなりで写し取りにくい部分は、指で擦るときれいに転写できる。

製作の終わりには、後片付けとなる。しかし、これまで述べた版画遊びと違い、一般的な版画製作のプロセスを経るので、ゴムローラーやインク練り板、インクを練るヘラを使用する。こ



折り、切り抜いた作品 図-8

の片付けも、子どもとともにやり活動を終えることが大切である。効率的な後片付けの方法は、汚れたインク練り板に新聞紙を被せ、その上をゴムローラーで4～5回転がす。練り板、ローラーともこの時点で大方のインクを取ることができる。その後、洗剤で洗うと簡単にきれいにするができる。また、ヘラも新聞紙で荒拭きして同様に洗う。

多くの子どもにとって、紙版画は下絵・製版・インクづけ・刷りそして用具の後片付けと順序だった過程を守って製作する最初の版画活動であろう。一定の条件を守りながら、自由な表現に繋げる難しさや楽しさを学び、用具を次も使えるように綺麗にして片づける。このプロセスは、子どもの意欲や洞察力、感性や想像力を育て、さらに、知識・技能・慣習をも培い、バランスの取れた心身の発達を促すことになる。

4) ステンシル (型紙版画)一孔版

ステンシルは前項で述べた紙版画と同様、紙

を版の素材としている。ただし、版形式は凸版とまったく違う形をとる孔版である。しかし、転写する作業が比較的容易で、インクとして水彩絵の具やクレヨン・クレパス、色鉛筆等と身近な材料が使用でき、子どもにとっては慣れ親しみやすく、扱いやすい版種である。この点から保育者の計画次第で、3歳頃から取り入れ可能な版画活動である。

● ステンシル遊びのねらい

はさみなどの材料用具の使い方に慣れる。

型紙の形の面白さを楽しみ、形に対する感性を育てる。

様々な色で同じ形を転写することで、色の美しさに気づく。

● ステンシル遊びに必要な材料・用具

画用紙・色画用紙・タンポ・水彩絵の具・クレヨンかクレパス・色鉛筆・はさみ・セロテープ・新聞紙

● ステンシル遊びの準備・環境構成

クレパスや色鉛筆等を使う転写は、特別な環境構成準備等は必要ない。しかし、水彩絵の具で転写する場合は、タンポと5色位の絵の具皿(インク台)や刷るときの作業台(新聞紙を敷く)を保育者が用意しておく。

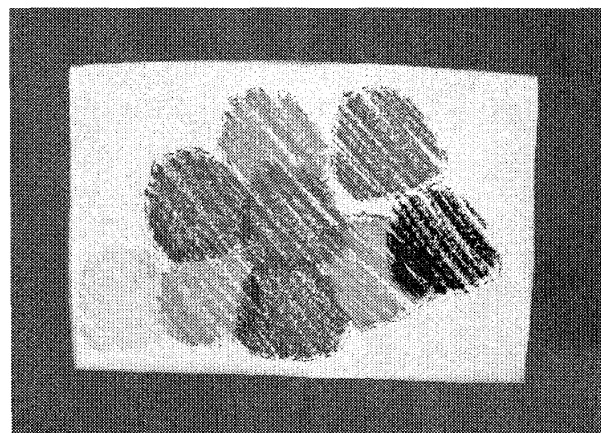
● ステンシル遊びの導入仕方

この活動は、はさみの基本的使用をある程度身に付けてから取り入れると無理なく楽しむことができる。

初めてステンシル遊びを保育に取り入れる場合は、殆どの3歳児が獲得している基本図形の円をテーマにすると型紙製作や転写の作業を容易に行うことができ活動が円滑に進む。ステンシルの仕組みもその過程で具体的に理解することができる。さらに、色々な基本図形で繰り返し活動を重ねると理解度が深まり次への活動につながっていく。また、型紙は切り抜いた形と切り抜かれた形(以後、雄型ならびに雌型という)ができるが、初期の遊びでは雌型を使うと転写しやすく、シルエットとして映し出される形も色の面として美しく表され、子どもの興味や関心を強く引き出すことができる。

様々な基本図形のステンシル遊びを楽しんだ後、人や動物、家や車などの具象的な表現につ

なげて行くと、活動は活発に広がり子どもの心身の発達に良い影響を及ぼす。



円の型紙での色玉遊び(雌型) 図-9

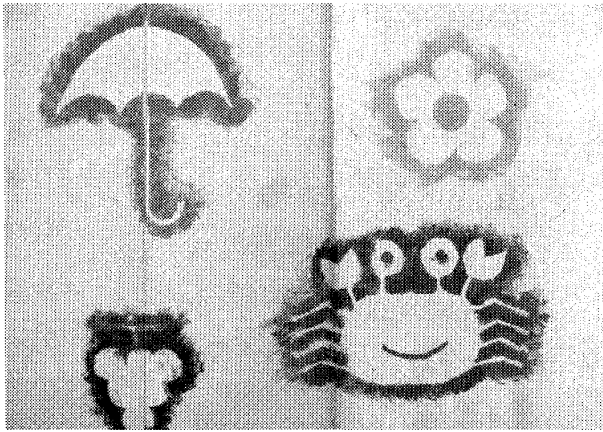
● 製作活動及び展開

型紙の製作例として、基本図形「円」で具体的に解説する。まず画用紙を半分に折り、半円を背の部分に描いて切り取る。この方法で容易に円の雌型を作ることができる。このほか、画用紙の中央に子どものこぶし大の円を描き、外側からはさみで切り取る。この場合、雌型の型紙をテープで止めることが必要である。半分に折る型紙製作は左右相称形の形しかできないので、自由な形を望む場合はこの方法がよい。しかし、3歳児で活動を行った経験から、折って切り取る方法が無理なく型紙製作に取り組める。

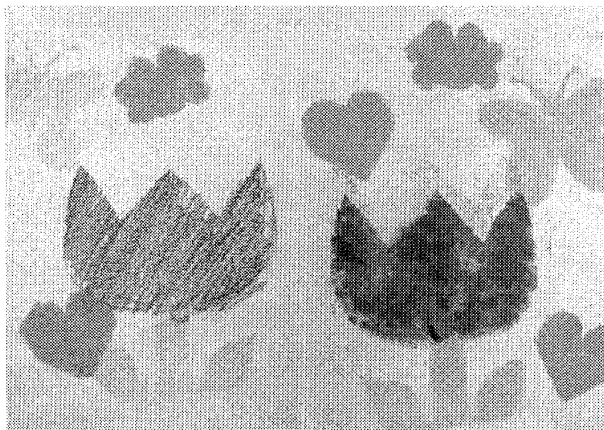
製作活動の保育計画の展開としては、左右相称系の型紙(基本図形)を作り、転写に使う型紙は雌型を使う活動から始め、自由な形の型紙製作に進む。転写に関しては雌型の刷りを体験した後、雄型を使う活動に取り組むと円滑に展開していく。雄型を使う場合は、型紙の裏に丸く輪にしたセロテープを付け、画用紙に固定して転写すると形がずれることなく刷ることができる。

ステンシルの活動は、同じ形を色々な色で何回も繰り返し刷ることで、一つ一つの形につながりや色が持つ美しさに気づく。さらに、集合して群れになった画面の面白さが不思議で豊かな効果を生み、子どもの表現意欲を大いに刺激する。

さらに、様々な型紙を作り自由に転写することで、子どもの表現は深まる。そのことは、造形活動に対する意欲や関心を高めるとともに、子どもの主体性をも培う。



切り抜いた型紙の表現（雄型） 図-10



クレヨン（左）と水彩絵の具（右） 図-11

おわりに

この稿では、長年子どもや幼児教育の学生に指導・支援した経験から培った方法と理論を基に、幼児期の版画活動に適していると考えられるスタンプング・フロッタージュ・紙版画・ステンシル（型紙版画）の四つの版種について実践例を示しながら具体的な解説を試みた。

私自身、付属幼稚園で造形活動の支援を毎週行っている。この観点から、特に導入の仕方と製作活動及び展開の記述内容は、日常の保育に無理なく取り入れることができ、且つ、子どもの心身の発達を健やかに促す活動の一助になるように、保育室の子どもの現状を鑑みながら、実行可能な活動例の検証と考察になるように心

がけた。しかし、記述全体を読み返してみると、今の園児の実態をもう少し仔細に分析し、日々多様化、複雑化する保育の現状に適した活動例の研究が必要ではないかと感じた。

言い換えれば、保育者養成の表現系の教員として、複雑化する個々の子どもの実態に対応した造形遊びの研究をさらに深めることが急務であるということである。そのことが、将来の日本を担うであろう子ども達の生きる力と豊かな人間性を育てる一助にもなると私は考えている。

※追記

「幼児の表現活動についての考察」は、当初一編の論文にまとめる予定であった。しかし、論考を進める過程で、予想より記述事項が増したことに加え、本文の「おわりに」に述べたように、更なる研究の必要性を感じた。そのため、初期の計画に組み込まれていた八種類の版種のうち、四つの版種を記述し、残りの版種に関しては、改めて論じたいと考えている。

参 考 文 献

参考作品

若杉造形教室
東海学院大学短期大学部

— 児童教育学科 —